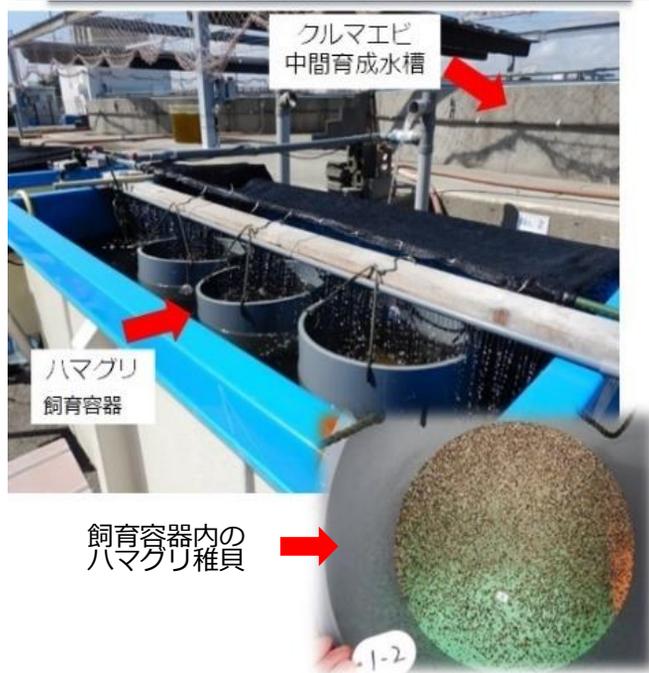


ハマグリ中間育成技術の開発

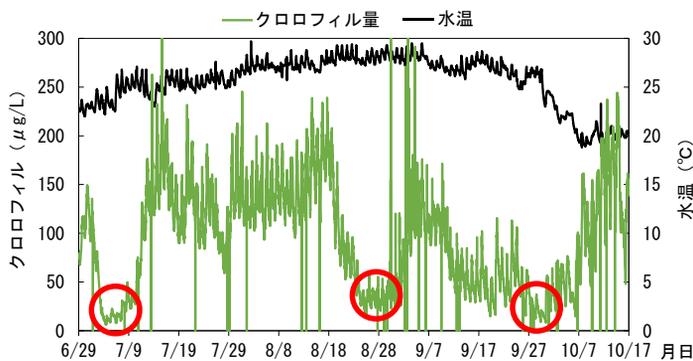
クルマエビの飼育排水を利用したハマグリ飼育



- ・6～11月に行われる放流用クルマエビ種苗の中間育成では、水槽内に植物プランクトンが大量に発生する。
- ・この植物プランクトンをハマグリ稚貝の餌として活用し中間育成する技術を開発した。

R5年度の中間育成試験の結果 (R5.10/16終了時点)

	平均殻長	個数
大サイズ	9.4mm	78,800個
小サイズ	3.9mm	1,066,600個
全個体	4.3mm	1,145,400個 (生残率79.5%)



クロロフィル量と水温の推移
(赤丸：クロロフィル量の低下)



中間育成初期 (左：7月) と終了時の稚貝 (右：10月)

- ・安定したハマグリ中間育成のためには、餌となる植物プランクトン濃度を維持することが課題。
- ・IoT観測機器をクルマエビ中間育成水槽に設置し、植物プランクトン濃度の指標となるクロロフィル量をリアルタイムで把握。
→クロロフィル量が低下した際に、植物プランクトン濃度を調整することで、ハマグリ餌料環境の安定化が可能に。



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812